外国語科学習指導案

福山市立神辺西中学校

１　日　時　　2018 年（平成 30 年）6 月 21 日（木）5 校時

２　学　年　　1 年 3 組　31 名

３　単元名　　Unit2　学校で　（New Horizon English Course １）

４　単元について

単元観

本単元では，be 動詞（this is，that is，she is，he is）を用いて，身の回りの人やものについて紹介や説明をしたり，尋ねたりすることをねらいとする。学校内外の両方の場面において，自然なやりとりができるようなタスク設定を行うことで，コミュニケーションに関する関心や意欲を高めさせることができると考える。また，Unit1 の学習（I am，you are）や小学校の外国語活動（飲食店でのやり取り）と効果的に結び付け，それらを発展させた活動を行うことに適した単元である。

学習指導要領（外国語科）の「日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりすることができるようにする。」（話すこと[やり取り]―イ）に基づき，レストランでの注文のやり取りを通して，生徒が主体的に会話を続け，自分の目的を達成するという課題解決力を育成することができる単元でもある。

生徒観

本クラスは，男子１９名，女子１２名で，男子に活発な生徒が多く，授業のムードを作っている。女子は発表などにおいて消極的であるが，家庭学習のしかたを工夫する生徒が増えてきている。全体的にペアワークに意欲的ではあるが，英語使用という点においては，日本語で活動してしまうペアがいくつかある。英語検定については，４級以上を取得している生徒は１人もいない。

①中間試験：Writing（正答率）

○課題：　条件英作文 （自己紹介，８文）	８０％以上	５人
	７０％～７９％	５人
	６０％～６９％	２人
	５０％～５９％	３人
	４０％～４９％	２人
	３９％以下	１４人

②中間試験後に行ったパフォーマンステスト： Speaking（文の数）

○課題：　自己紹介 ○制限時間：　１分	１６文以上	２人
	１３～１５文	１０人
	１０～１２文	１２人
	９文以下	７人

４技能については，「話すこと」の活動に関心が高く，４月に行ったアンケートでは，「中学校の英語の授業で伸ばしたい力は？」という問いに９７％の生徒が「話す力」と答えている。これらの結果から，生徒のモチベーションが高い「話すこと」を，苦手意識をもつ「書くこと」に効果的につなげていくことが今後必要であると考えられる。

指導観

基礎・基本の定着を図り，本単元の目標を達成するために，特に次の３点を焦点化して指導する。

（※①：基礎・基本，②主体的な学び，③２１世紀型“スキル＆倫理観”）

①授業の帯活動と家庭学習の両方において，be 動詞を含んだ文の作り方を復習させる。

②やり取りにおいて，定型表現を用いるだけでなく，その場に応じて生徒自身に表現内容を選択させたり考えさせたりする。

③単元末のパフォーマンステストにおいて，「レストランでのやり取りが成立した」，「習ったことを実際に使うことができた」，など課題解決ができたことに対する達成感をもたせる。

５　単元目標

○【表】be 動詞を用いて，身の回りの人やものについての紹介・説明・問答をする。

○【コ】間違いを恐れず，身の回りの人やものについての紹介・説明・問答を積極的にしようとする。

○【知】be 動詞の形・意味・用法について理解する。

６　単元の評価規準

ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ　外国語表現の能力	ウ　外国語理解の能力	エ　言語・文化についての知識・理解
①間違いを恐れず，身の回りの人やものについての紹介・説明・問答を積極的にしようとしている。	①be 動詞を用いて，身の回りの人やものについて紹介・説明することができる。 ②be 動詞を用いて，身の回りの人やものについて問答することができる。		①be 動詞の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。

７　本校で身に付けさせる２１世紀型“スキル＆倫理観”（※太枠：本単元での重点項目）

課題発見・解決能力	思考力・判断力・表現力	コミュニケーション能力
自ら課題を発見し，身に付けた技能や既習事項を生かしながら，筋道を立て課題を解決しようとする力が身に付いている。	課題を解決するために既習事項を生かし，対話を通じて，互いの相違点を理解し，深い学びを目指すことができる。	自己と他者の違いを受け入れ，協働しながら課題を解決し，よりよい生活を目指し続けようとしている。

８　単元ゴール

コミュニケーションの目的・場面・状況	レストランでオススメ料理を食べるために，店員に質問したり，店員の質問に答えたりして，対話を継続・発展させることができる。
目指す発話例	≪対話例①≫ A： Here's your menu. B： Thank you. A： What would you like？ B： Hmm, what's your recommendation？ A： This is our recommendation. B： Is this beef？ A： Yes, it is. B： Is this spicy？ A： Yes, a little. B： I'll have this one. ≪対話例②≫ A： How many？ B： We are two. A： This way, please. Here's your table. B： OK. Thank you. A： What would you like？

	B： Hmm, what's your specialty？ A： This is my specialty. B： Is this large？ A： No, it's medium. B： Is this oily？ A： No, it isn't. It's healthy. B： I'll have this one. Medium, please.

９　小学校外国語活動を踏まえた指導の工夫

①簡単な語句や基本的な表現を用いて，その場で質問をしたり質問に答えたりして伝え合う。

②関連する言語材料

We Can 1, 2	We Can 1, 2 → 中学校	中学校
≪We Can 1 : Unit8≫ 〇What would you like？ 〇I'd like ～.	注文を尋ねる＆答える → 店員とのやり取りの中で食べたいものを決めて注文する	〇What's your recommendation？ 〇What's your specialty？ 〇I'll have this one.
≪We Can 2 : Unit2≫ 〇sweet, bitter, sour, salty, spicy	味覚 → 味覚＋サイズなど	〇small, medium, large, healthy, oily

１０ 単元計画 （全８時間）

時	目標（◆），発話量の目安（＊）など	評価規準［評価方法］
1	◆be動詞(I am, You are)の形・意味・用法について復習する。 （＊単元末のパフォーマンス課題についての説明）	エー①[ワークシート]
2	◆自分の友達の名前，関係，出身地などを他の人に紹介することができる。 （＊３～４文程度） This is my friend, (　). She is from Kannabe. She is in the volleyball club.	イー①[ワークシート]
3	◆友達紹介（名前，関係，出身地など）を行ったうえで，さらに知りたいことを尋ねたり，その質問に答えたりしようとする。 （＊２往復程度） A : This is my friend, (　). He is from Kannabe. He is in the badminton club. B : Is he a (形容詞) student？ A : Yes, he is. B : Is he a 〇〇 fan？ A : No, he isn't.	アー①[観察・カルテ]
4	◆自分の友達の名前，関係，出身地などをＡＬＴに紹介し，ＡＬＴからの質問に答えることができる。 （＊３往復程度） A : This is my friend, (　). He is from Kannabe. He is in the badminton club. B : Is he a (形容詞) student？ A : Yes, he is. B : Is he a 〇〇 fan？ A : No, he isn't.	イー①・② [パフォーマンステスト]

	B : Is he into (　) food ? A : Yes, he is.	
5	◆近くにあるものや遠くにあるものが誰の持ち物であるかを説明したり，問答したりすることができる。 （＊２～３往復程度） A : Is this your helmet ? B : No, it's not. A : Is that your helmet ? B : Yes, it is.　Thank you. A : Not at all.	エー①[ワークシート]
6	◆レストランのメニューを見て，写真の料理について尋ねたり，答えたりすることができる。 （＊３往復程度） A : Is this pork ? B : Yes, it is. A : Is this oily ? B : Yes, a little. A : Is this small ? B : No, it's medium.	イー②[観察・カルテ]
7	【　本時　】 ◆レストランでオススメ料理を食べるために，積極的に店員に質問したり，店員の質問に答えたりしようとする。 （＊３～４往復程度）	アー①[観察・カルテ]
8	◆レストランでオススメ料理を食べるために，店員に質問したり，店員の質問に答えたりすることができる。 （＊５～６往復程度）	アー①，イー①・② [パフォーマンステスト]

１１ 本時の学習

（１）本時の目標

○レストランでオススメ料理を食べるために，積極的に店員に質問したり，店員の質問に答えたりしようとする。

（２）本時の評価規準

○間違いを恐れず，身の回りの人やものについての問答を積極的にしようとしている。

（関心・意欲・態度）

（３）本時の学習展開

時	学習活動	指導上の留意事項	評価規準，方法
5分	1 Warm-up ≪Ｑ＆Ａ≫ ・質問に文のレベルで答える。	○既習事項をランダムに用いて質問する。 （Are you ～?，Do you ～?，Is this ～?など） ○文で答えることが難しい場合は，単語でもよいから，英語で答えることにチャレンジさせる。	
12分	2 Review ≪フォニックス・ドリル≫ ・発音されたものを聞き取って，単語を完成させる。 （□eef，□ork → beef，pork など）	○発音と綴りを効果的に関連付けて，単語を書くことを定着させる。 ○聞き取りによって，本単元で必要な語彙を増やす。	

	≪基本文インプット≫ ・本単元のやり取りに必要な表現・基本文を確認する。	○既習事項や定型表現をスムーズに使えるように，パワーポイントを用いて口頭練習を行わせる。 ・This is beef. ・Is this pork？ ・Yes, it is.　/　No, it's not.	
13分	3　学習課題の把握 ・本時のねらいを確認する。 **レストランで自分好みのオススメ料理を食べよう！** 《 Let's Watch & Think 》 ・モデルダイアログを視聴して，後の活動の参考にする。	○「自分好みのオススメ料理を食べる」という課題解決に向けて，どのようなやり取りが必要であるかを考えさせ，チャレンジしようという意欲を持たせる。 ○聞き取った内容を確認することで，基本文インプットなどで学習したことをどのように活用したらよいのかを気付かせる。	
18分	4 Activity 《 Let's Try 》 ・ペアごとにオススメ料理の写真を用いて，店員と客のやり取りを３往復以上できるように練習する。 ・代表ペアがクラスの前で発表する。	○やり取りのキーフレーズを黒板に提示する。 （＊単元末のパフォーマンステストに向けて，黒板を見なくても自力でやり取りが進められるようになることを促す。） A：　What's your recommendation (specialty)？ B：　This is my recommendation (specialty)？ A：　Is this pork？ B：　Yes, it is. A：　Is this spicy？ B：　No, it's not. A：　OK.　I'll have this one. ○スムーズに対話できているペアには，Is this ～?のやり取りを３往復以上チャレンジするようにアドバイスする。 ○練習後，やり取りの往復回数を確認し，回数の多かったペアに本時のモデルダイアログとしてクラスの前で発表させる。	アー① 【観察，カルテ】
2分	5　まとめ ・カルテを記入する。	○振り返りカードの記入によって，達成感や単元末の課題に向けての目標を持たせたり，授業内容を家庭学習とリンクさせたりする。	

（４）準備物

○プロジェクター　○スクリーン　○パソコン　○ワークシート　○タイマー

１２　パフォーマンステスト（ペアでのやり取り）

評価の観点	関心・意欲・態度	表現
A	間違いを恐れず，習ったことを積極的に使って，やり取りを続けようとしている。	○レストランで自分好みのオススメ料理を食べるために，意味のあるやり取りを５往復以上続けることができる。 ○問いに対して，”Yes. / No.”や単語レベルではなく，プラスαの 情報も付けて答えている。
B	間違いを恐れず，なんとかやり取りを続けようとしている。	○レストランで自分好みのオススメ料理を食べるために，やり取りを５往復以上続けることができる。 ○問いに対して，”Yes. / No.”や単語レベルで答えている。
C	自ら積極的にやり取りを続けようとしていない。	○自分好みのオススメ料理を食べるためのやり取りが成立していない。 ○レストランでのやり取りを４往復以上続けられない。